

令和7年度 加木屋中学校 学校経営方針

1 本校の教育目標

〈校訓〉 自 主 協 調 奉 仕	〈本校のめざす生徒像〉 ◎自ら考え、正しい判断をし、実行する生徒 ◎集団の一員として他を思いやり、より良く生きようとする生徒 ◎他のことを考え、自ら進んで奉仕する生徒
----------------------------------	---

2 経営方針

どの生徒も「より善くなりたい」と願っている。学校は人をつくる場所である。生徒の主体性を尊重しつつ、「生きる力」の育成を目指す。生きる力である徳・知・体の調和のとれた人間形成を図る。同時に、生徒の成長を支えるため、学校教育充実のため、教職員の育成を図る。

ア（徳）自己の生き方について考えを深め、豊かな心を育む

- ・教育活動全体で「夢は実現させるための目標」という意識をもたせる。
- ・生徒の道徳性を養うために、「魅力ある道徳の授業」を追究する。
- ・地域や家庭と連携して奉仕活動を推奨し、ボランティア精神を育む。

イ（知）自己の人生を切り拓くための確かな学力を育む

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図る。
- ・各教科・各領域において、課題を見だし、よりよく解決していく能力を育成する。
- ・学習する習慣の確立を図りつつ、学び方を学ぶ指導を図る。

ウ（体）たくましく生きるための健やかな体を育む

- ・生涯にわたって積極的に運動に親しむ意欲をもたせる。
- ・望ましい生活習慣、食生活を身につけさせる。
- ・生徒理解に努め、生徒の心に寄り添い、居場所づくりを進め、自己肯定感をたかめさせる。

3 本年度の重点努力目標

「自主 協調 奉仕 ー魅力ある加中 夢を実現する加中生ー」を掲げ、本校の強みである「地域力」を存分に生かしつつ、教育活動を実践する。目指すところは、生徒が「通いたくなる学校」、保護者や地域の人々が「通わせたい学校」、教職員が「勤めたい学校」である。そのためには、生徒の主体性を尊重しながら、授業改善、働き方改革を進めていく。

- 生徒が教育活動において達成感・成就感を感じることができるようになる。そのために、常に目標をもたせ、節目ごとに振り返り、目標の再設定や変更をさせる。何ができて、何ができなかったのかを常に考えられるようにする。
- 不登校傾向の生徒が別室登校の機会や外部機関との連携を通して、エネルギーをためられるようになる。また生徒理解に努め、心に寄り添い、生徒自身でクリアできそうな目標をもてるようにする。
- 生徒が生き生きと学校のことを話したり、教育活動により生徒の成長を実感したりできるようにする。そのために、ホームページ、たより等で積極的に学校での活動を知らせ、生徒と保護者が学校の話で関われる工夫をする。
- 行事等に保護者・地域の方が関われる機会を増やすようにする。また、配信等を増やし、少しでも学校での様子が分かるようにする。
- 問題等が起こった場合は、誠実かつ迅速に対応し、保護者とともに、ふりかえり、協議をする。
- 教職員自身が学年経営、学級経営、授業実践等で夢や目標をもち、それに向けて力を注ぐ環境をつくり、達成感や達成感を感じることができるようになる。
- あらゆる教育活動において一人一人がチーム学校を意識して、ボトムアップしながら、協働して教育活動に取り組むことができるようにする。
- あいさつを励行するなど、生徒同士、生徒と教職員、教職員同士の心の交流が図れるようにする。